

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいさぼーとmoana2(保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2025年 12月 15日		2026年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・放課後等デイサービス、児童発達支援のサービスと併用して保育所等訪問を利用している児童がほとんどである為、包括的な支援が可能なこと。	・新規利用の時点で、同法人に所属していることを条件に入れている為、支援内容に充実感を持たせるように画策している。	・今後も同様に包括的に支援を行っていく。
2	・放課後等デイサービス、児童発達支援との併用で利用しているので、訪問先の担任の先生と連携がとりやすい。	・送迎の際などに、事業所内で共有した情報を基に信頼関係の構築を行っている。 ・担任の先生からの困り感を訪問支援員に伝える事で、ニーズの洗い出しをスムーズに行えるようにしている。	・洗い出したニーズに対して、しっかり記載し個別支援計画の質につなげていきたい。
3	・送迎の際に保護者と顔を合わせて話を出来るので、問題点の洗い出しが比較的タイムリーに行える。	・学校での様子などと交え、訪問支援員から得た情報をしっかり共有し、支援の透明性を上げられるように工夫し、その際に新たなニーズがないか確認している。	・拾い上げたニーズをしっかりと支援につなげていく。訪問支援だけではなく包括的に支援していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所内に専門員(作業療法士や言語聴覚士)がいない。	・人的な要因なので仕方ない部分もあるが、専門性の高いサービスを行う上で専門員がいる場合とでは、どうしても質の差が出てしまう。	・求人にて募集を行いつつも、支援の質の向上を図って専門性の高い研修などに積極的に参加し、個人の能力を上げていく。
2	・訪問支援員の人数が少ない(現在3名)	・兼任で行っている為、他のサービスに支障が出ないようにこの人数で行っているが、一人当たりの件数が増えていくと質が下がってしまう恐れがある。	・それぞれの割り振りで負担をしっかりと見極め、一人一人に細やかな支援がなされるよう配慮していく。必要であれば増員も検討していく。
3			